

読書通信

創刊号
発行人: amagata

創刊の辞

三年前のリーマン・ショックを契機とする世界的な金融危機、昨年のチュニジアに端を発した中東での民主化運動、そして、今年の三月十一日の東日本大震災など、先行きの見えない世界が私たちの眼前に広がっている。私たちは何に向かつて、何を糧にし、如何に生きていけばよいのであろうか。

現代は情報化社会と云われ、膨大な情報が加速度を増して私たちに迫ってくる。このような状況のなかで私たちは絶えず選択を強いられている。よりよい選択をするためには、「考える力」「想像する力」が不可欠である。この能力を養うための最良の方法は読書である。様々な視点で書かれた作品を読むことで、「考える力」「想像する力」を養うための訓練ができるのである。

力” “想像する力”が必要で、このためのツールが読書である。

君たちは朝読やメールなどによって文字に接する機会や読む機会が増えている。せっかくの機会に、是非名作を読んで欲しい。名作にはいくつもの時代や価値観を乗り越えてきた普遍性がある。きつと、君たちにも得られるものがあるはずだ。若し君たちだからこそ得られるものもあるはずだ。なかには難解な作品もある。けれども、読み続ける忍耐力が必要だ。理解できなくてもいい。読み通すことで得られるものが必ずある。読書で培われたわずかな糧は、脳の奥底に少しずつ沈殿し、すぐには浮かび上がって来ないかも知れない。しかし、何らかの刺激を受けることによって、その沈殿物は攪拌され、いつか必ず表出するに違いない。そして、君たちが障害を乗り越える際の一助となることだろう。

この「読書通信」を通して、君たちが読書に関心を持ち、自ら進んで読書をする態度を養って欲しい。そして、読書による未知なる世界へ旅立って欲しい。その世界は無限の広がりを持っている。君たちの未来も無限の広がりを持っている。

選定図書五〇冊

(2010版)

私自身が読んだことがあり、もう一度読みたい本を五〇冊選びました。短い作品も多々あります。みんなも是非読んで欲しいと思います。そして、読んだら感想を聞かせてください。

《小説》

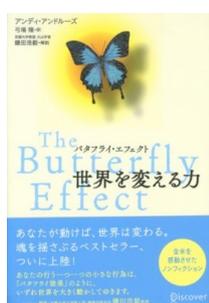
- ① 芥川龍之介「河童」
- ② 有島武郎「或る女」
- ③ 泉鏡花「高野聖」
- ④ 井伏鱒二「黒い雨」
- ⑤ 遠藤周作「深い河」
- ⑥ 小川糸「食堂かたつむり」
- ⑦ 小川洋子「博士の愛した数式」
- ⑧ 梶井基次郎「檸檬」
- ⑨ 丸善で「レモン」爆弾
- ⑩ 川端康成「雪国」
- ⑪ 国木田独步「武蔵野」
- ⑫ 小林多喜二「蟹工船」
- ⑬ 椎名麟三「深夜の酒宴」
- ⑭ “うっ” になると毎回読みます。“人生は堪えること”
- ⑮ 志賀直哉「城崎にて」
- ⑯ 島崎藤村「破戒」
- ⑰ 太宰治「人間失格」
- ⑱ 谷崎潤一郎「痴人の愛」
- ⑲ 田山花袋「蒲団」
- ⑳ 中上健次「岬」
- ㉑ 中島敦「李陵」
- ㉒ 夏目漱石「三四郎」
- ㉓ 樋口一葉「たけくらべ」
- ㉔ 二葉亭四迷「浮雲」
- ㉕ 松本清張「点と線」
- ㉖ 三島由紀夫「金閣寺」
- ㉗ 宮沢賢治「銀河鉄道の夜」

- ㉘ 村上春樹「ノルウエーの森」
- ㉙ 村上龍「限りなく透明に近いブルー」
- ㉚ 森鷗外「舞姫」
- ㉛ 横光利一「機械」

《評論など》

- ㉜ 伊藤整「小説の方法」
- ㉝ 梅棹忠夫「知的生産の技術」
- ㉞ 沢木耕太郎「深夜特急」
- ㉟ これを読むと、バックパッカーになってしまいます。要注意!
- ㊱ 中野孝次「清貧の思想」
- ㊲ 三木清「人生論ノート」
- ㊳ 《詩・短歌など》
- ㊴ 石川啄木「一握の砂・悲しき玩具」
- ㊵ 高村光太郎「道程」
- ㊶ 谷川俊太郎「二十億光年の孤独」
- ㊷ 俵万智「サラダ記念日」
- ㊸ 中原中也「山羊の歌・在りし日の歌」
- ㊹ 萩原朔太郎「月に吠える」
- ㊺ 三好達治「測量船」
- ㊻ 与謝野晶子「みだれ髪」
- ㊼ 《外国文学》
- ㊽ カフカ「変身」
- ㊾ カミュ「異邦人」
- ㊿ ゴーゴリ「外套」
- 1 サリンジャー「ライ麦畑でつかまえて」
- 2 ジッド「狭き門」
- 3 ドストエフスキー「罪と罰」
- 4 ボードレー「悪の華」
- 5 ランボ「地獄の季節」
- 6 ぼくにとつての旅の友。何度読んでも味わい深い。

【最近読んだお薦めの本】
「バタフライ・エフェクト
世界を変える力」



アンディ・アンドルーズ著
弓場隆 訳

「あなたの今日の行為、ひいては人生は、未来を永遠に変えるだけの力を持っていることを知っておいてください。(中略)

あなたが、世界を変える力を持っているのです! (本文より引用 P01-02)

後記

一年前から、年間五〇冊読了を目標にしています。二年前は五五冊、昨年は五一冊でした。今年はまだ十八冊で、ペースが遅いので、夏休みに頑張ろうと思っています。

先日一年振りに京都に行ってきました。大学四年間、社会に出て四年間、計八年間、京都で過ごしました。ぼくにとっては、たいへん懐かしい街です。今回は大原三千院を訪れ、いにしへの空気に包まれてきました。あと半月もすれば、京の都は祇園祭一色です。“コンチキチン コンチキチン”